

エネルギー・蓄電池シリーズ（太陽光発電編）

# '12 太陽光発電ビジネスの実態と将来展望

株式会社 日本エコノミックセンター  
JAPAN ECONOMIC CENTER CO., LTD (JEC)

## はじめに

太陽光発電は、クリーンで且つ無限の資源量を誇る太陽光をエネルギー源として用いることから、世界的に導入が進んでいる。2009年の太陽光発電世界市場は、世界的な景気低迷の影響を受け、マイナス成長に陥ると懸念されていたが、各国政府による補助金をはじめとする導入に向けた施策が効果を上げ始めているため、同年後半から活況を取り戻している。太陽電池メーカーも、2010年以降の市場への期待を高めており、増産体制の動きを活発化させている。2010年度の太陽電池世界市場は、出荷量ベースで16,100MW（前年度比81.9%増）、金額ベースで2兆2,500億円（同比28.6%増）と予測した。

一方、国内の2010年度上半期（4～9月）の太陽電池総出荷量は、前年同期比80.0%増の1,228MWとなった。（出所：太陽光発電協会）。国や地方自治体の補助金制度や電力会社による余剰電力買取制度の認知度が高まったことで、過去最高の記録となった。また、国内出荷量（国内生産+輸入）に占める輸入品は2009年度には70MWで、11.2%のシェアとなった。2010年度上半期の輸入品シェアは5～6%程度であるが、数量は前年度上半期よりも2～3倍以上の増加となっている。中国などの海外メーカー品は国産品よりも2～3割程度低価格なことから、今後も輸入品の割合が拡大することが見込まれる。

弊社は創業45年のマーケティング調査会社で当資料は専門スタッフによって編纂されております。関連資料として「蓄電デバイス市場・部材の将来展望」「スマートグリッド市場の将来展望」等の調査レポートを刊行しております。商品タイプとして印刷版の他、CDタイプ（PDF）などを用意しております。

御社の事業戦略の立案及び展開される際に、本レポートがご活用下されれば幸いに存じ上げます。

株式会社 日本エコノミクスセンター 市場調査部  
2011年1月

試用

# 第 I 章 太陽光発電市場の将来性

## 1. 太陽光発電市場概要と展望

### (1) 太陽光発電市場の実態（世界・国内）

弊社の調査によれば、2008 年度の太陽電池世界出荷量は推定 6,691MW と前年度比 47.7%の増加となった。主な地域別出荷量では中国が 1,810MW で世界首位となった。以下、ドイツ 1,333MW、日本 1,120MW、台湾 860MW、米国 409MW と続く。前年度に続き、中国及び台湾では前年度比約 2 倍の伸びとなっており、成長力という点では最も目を引いている。企業別では独 Q-Cells が 554MW で、世界首位を保っている。世界 2 位に浮上したのが米国ファースト・ソーラーで、出荷量は 522MW となった。前年度と同様、世界 3 位のシェアを獲得したのが中国サンテックで 507MW であった。前回、世界 2 位であったシャープは前年度比 16.0%増の 421MW となったが、上記の海外メーカー3 社が生産を伸ばしたことで、世界 4 位に下げている。以下、台湾モータックが 303 MW、京セラが 290MW と続く。

2009 年度の世界出荷量は世界的な景気低迷の影響などにより、太陽電池需要が落ち込んだことから、14.8%減の 5,768MW と前年度を下回る見通しである。一方、国内における太陽光発電市場は、住宅用太陽光発電導入補助金制度の復活もあり、順調に拡大している。また、2009 年 11 月には電力会社による余剰電力の買取価格が 1kW 当たり 24 円から 48 円に引き上げられた新買取制度が開始されたことで、需要増に拍車が掛かっており、太陽電池メーカー各社は生産体制の強化などを図っている。

2009 年において太陽光発電世界市場は低迷したが、2010 年以降は電力消費量削減を目指した次世代電線網「スマートグリッド構想」などにより、太陽電池関連企業にとっては大きなビジネスチャンスにつながることから、市場が再び拡大するとみられる

2007～2009 年度における太陽電池世界出荷量（地域別）

	2007 年度		2008 年度		2009 年度		対前年度率	
	MW	%	MW	%	MW	%	MW	%
日本	911	20.1	1,120	16.7	1,710	29.6	590	152.7
ヨーロッパ	1,350	29.8	1,550	23.2	1,100	19.1	450	71.0
アメリカ	370	8.2	409	6.1	59	6.1	59	85.6
その他地域	1,899	41.9	3,612	54.0	2,605	45.2	1,004	72.2
合計	4,530	100.0	6,691	100.0	5,768	100.0	2,103	86.2

(※数値は年度単位で算出し、弊社推定を含む。PV News 等の統計数値とは異なる場合あり)

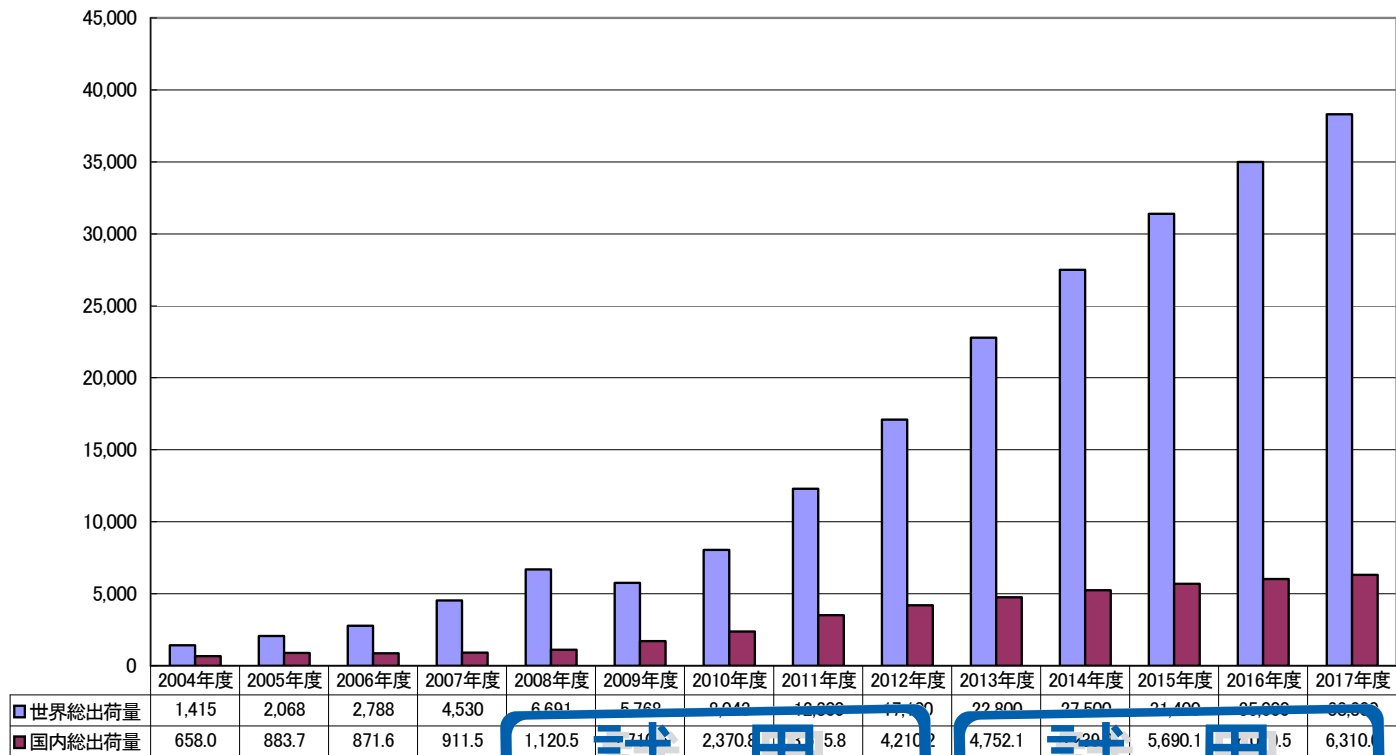
太陽光発電の導入実績と導入目標（国内累積）

2000 年度	2006 年度	2010 年度	2020 年度	2030 年度
29.3 万 kW	170.9 万 kW	482 万 kW	2,870 万 kW	8,280 万 kW

(出典：NEDO)

## 太陽電池出荷量推移予測(ワールドワイド) (単位: MW)

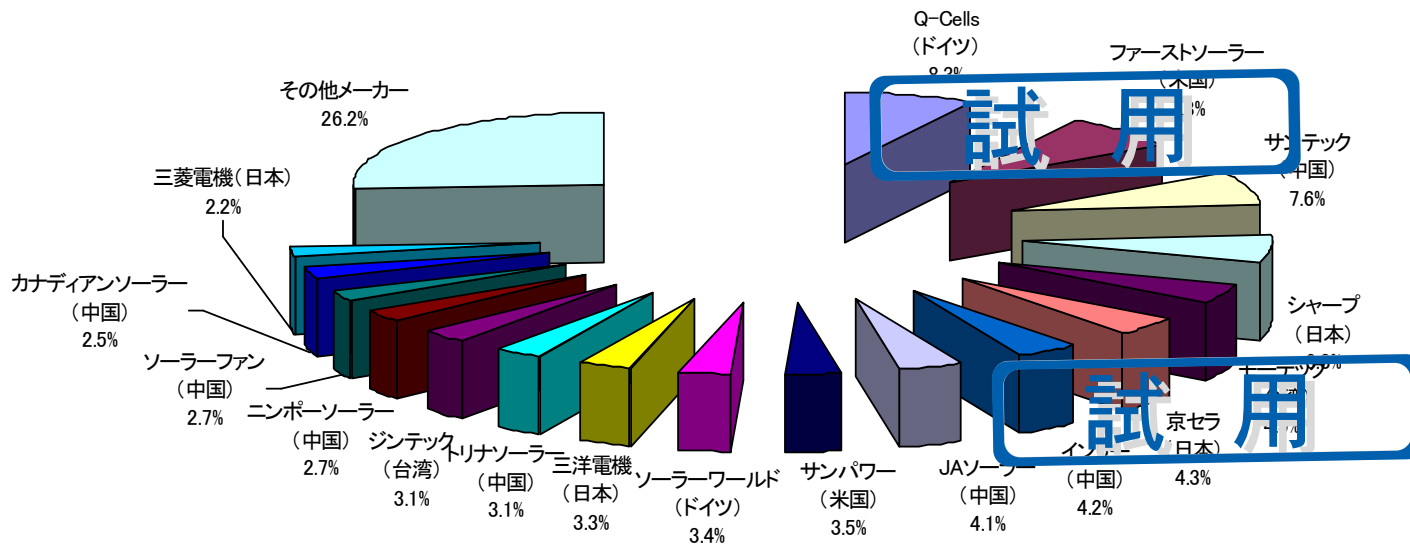
※国内は太陽光発電協会(JPEA)。世界及び2009年度以降はPV News等統計資料に基づき弊社作成



試用 試用

# 太陽電池出荷量シェア(ワールドワイド) 2008年度6,691MW

※PV News統計及び業界情報に基づき弊社作成



## 第VI章 太陽電池関連企業の動向と戦略

### 1. セル・モジュール主要メーカー

企業名		株式会社 カネカ				
本社所在地		〒530-8288 大阪市北区中之島3-1-1 朝日新聞ビル Tel.06-6226-5050 (代表)				
生産	セル	単結晶	—			
		多結晶	—			
		薄膜型	自社生産	(アモルファス)		
		ハイブリッド	自社生産	カネカソーラーテック(株)		
	モジュール	単結晶	—			
		多結晶	—			
		薄膜型	自社生産	カネカソーラーテック(株)		
		ハイブリッド	自社生産	カネカソーラーテック(株)		
	パワーコンディショナー		—			
	システム		カネカ・エーシクルーフ			
担当部署	開発	カネカソーラーテック(株) 〒668-0831 兵庫県豊岡市神美台157-74 Tel.0796-29-5500				
	製造	カネカソーラーテック(株) 豊岡工場 〒668-0831 兵庫県豊岡市神美台157-74 Tel.0796-29-5500				
	販売	ソーラーエネルギー事業部 東京：Tel.03-5574-8073 大阪：Tel.06-6226-5012				
		08年度	09年度	10年度	11年度	12年度
総出荷量	セル・モジュール	単結晶	kW			
		多結晶	kW			
		薄膜型※	kW			
		ハイブリッド	kW			
		その他	kW			
		合計	kW			
	システム	住宅用	件			
			kW			
			億円			
		産業・公共用	kW			
			億円			
		合計	kW			
			億円			

※薄膜型は、アモルファスシリコン太陽電池。数値は弊社推定を含む

## ' 12 太陽光発電ビジネスの実態と将来展望

発行： 2012年 1月 27日 第一版  
定価： 73,500円 本体価格 70,000円  
発行人： 石澤 宜之  
編集： 株式会社 日本エコノミックセンター 市場調査部  
発行所： 株式会社 日本エコノミックセンター  
〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-11-5  
日本橋吉泉ビル 3F  
TEL 03-3808-0611(代)  
FAX 03-3808-0617(代)  
URL:<http://www.j-economic.co.jp>  
E-mail:[info@j-economic.co.jp](mailto:info@j-economic.co.jp)

● <禁無断コピー・転載>万一、落丁の場合はお取替え致します。

石澤 宜之 2012 Printed in Japan